

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311



キキョウ・オミナエシ 竹本久子 作 (ちぎり絵)

をやの思いをにをいかけ、

^{うちうち}
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

少年会 野外練成会開催

少年会笠岡回は八月二十二日から二十四日の二泊三日でサマーキャンプをしました。

今回が数えて九回目ということで参加者を心配しましたが、出発前日には少年会員十五名、スタッフ十名の参加者が決まり、勇んでつとめようと準備万端整えて、二十二日朝、全員大会に集合し、参拜の後、育成会長さまより「これから楽しいキャンプをするわけですが、どうぞ自然と楽しむと同時に、自然のこわざと



一 全 員 集 合 一

いうことも体感してほしい」とお話しされ、定刻に出発。キャンプ地である香川県観音寺ファミリーキャンプ場へと目ざしました。

朝から快晴の天気であり、途中、瀬戸大橋からは青い海と島、船などが行き交うなど、素晴らしい眺めをたんのうしながら、目的地へと車を走らせ、昼前には琴弾公園に寄り、それぞれの弁当を食べ、公園内にある水の芸術とも言える水琴窟を見学した後、キャンプ場へ到着しました。早速今回のキャンプのテーマである「たすけ合いと創造」のもと、皆さんで、たすけ合いながら、木陰の間にテントを設営しました。テントが設営できたら、お待ちかねの海水浴です。いくら歩いて行っても水深が殆ど変わらないという超遠浅の海で、存分に泳いだ後、夕食のカレーライスづくりに入りました。みんなで手分けをして、火をおこして、薪でゴハンを炊く係、野菜や肉を切つてカレーをつくる係など、二時間がかりでやっと自分たちで苦労して作ったカレーは「おいしい！」の一言でした。後片づけの後、おちばの方を向いて夕づとめ。夕日が水平線に沈むのを見て、みんなで「なんでお日さまは赤いのかなあ？」と云いながら眺めていました。夜は天体観測です。地球に近づいた火星や北斗七星、さそり座など、夜空をポツカリと口をあけながら見上げ、満天の星に息を

のみました。十時には疲れた体を班ごとのテントでぐっすり休憩、深い眠りに就き、一日目は無事終了しました。



御馳走が出来たイエーイ！

二日目は、朝ごはんの後、近くのプールで一日中水泳で体を鍛えるという事でひるごはんをはさんで三時頃まで、ウォーター 슬라이ダーや、流れるプールで水遊びをたんのうしました。夕食はバーベキュー。みんなで早速準備をしながらも三回目なので上手く炊けるようになり、班ごとに網の上で焼いた肉や、ソーセージ、野菜をしっかりと頂きました。夜は近くの風呂屋さんで汗を流し、早めの就

寝となりました。

三日目は、大忙し。朝ごはんの後、撤収に入りテント、シュラフ、ランタン、資材箱整理などを元通りに収め、出発前まで再び海の中でのボールゲーム等を楽しみ、十一時半には退村式を行い、お世話になったキャンプ場を後にしました。途中、砂でつくった銭形を山の中から見学し、昔の人は機械力もなく手作業でよくつくったものだと感じ。記念写真を撮って帰途に就きました。バスの中では、皆疲れているのか、無言でグッスリ、グッスリ。大教会には、予定通り三時に到着。親神さま、おやさま、みたまさまに御礼を申し上げた後、おやつのアイスクリューを食べ、楽しいキャンプも終わり、解散しました。全員元気でスケジュールをこなし、夏休みの思い出の一ページと、自然の中で生かされている実感を感じたことを喜ばせて頂きました。関係の皆様方に、厚く御礼申し上げます。

最近はおトキャンプ場など、レジャーキャンプが全盛ですが、笠岡団では今後も真の天理キャンプを目ざして遊んで行くことをスタッフ一同申し合わせ、来年のキャンプについて早くも思いを馳せ「不自由の中の楽しみ」をテーマにまとめさせて頂こうと話し合い、今年のキャンプの総括とさせて頂きます。

少年会団長

中島 誠治

若きみちのだい集う

婦人会笠岡支部女子青年では、八月二十三



支部長様を囲んで

日・二十四日と二日間に亘り、中・高生を中心に「こかん様に続く会」を開催しました。

参加人数は、女子青年十九名、委員八名、婦人会担当者八名でした。一日目は、中庭にてパーベキューに舌鼓を打ち、夕づとめ後、花火を楽しみました。二日目は、朝づとめ後、支部長様より十柱の神様について解りやすくお話し下さいました。にをいがけは、三グルー

プに分かれて、大門方面へ勇んで行かせて頂き、帰会して美味しいアイスクリームを頂きました。にをいがけから帰った後のアイスクリームの味は格別でした。その後、三グループに分かれてハープを取り入れた双六トーキングをしました。「好きな食べ物は何ですか?」「今、はまっていることは?」「理想の女性像は?」「こかん様について知っていることを話して下さい」、「女子青年活動の三つのかどめである、教会へ参拝しましょう。ひのきしんをしましょう。にをいがけをしましょう。について」等々、わきあいあいとのグループも盛り上がり、目を輝かせ、真剣に語り合いました。

昼食後、使わせて頂いた部屋の掃除、食堂の後片づけ、トイレ掃除とに分かれてひのきしんをさせて頂き、最後に神殿で、親神様、教祖、御霊様に御礼申し上げ、来る十一月三日、おちばで開催される第二十三回女子青年大会に向かって一人でも多くの友達を誘って参加することを誓い合い、「すてきなあなたに」を合唱し、閉会しました。

女子青年担当者



童心にかえって

第六十一回 英語講習会を終えて

英語講習会は今回で六十一回目を迎えた。



さあ！これから勉強するぞ

英語講習会の始まった一九六八年は、まさに学生運動の嵐が吹き荒れようとしていた。この年四月二十三日、ニューヨークの名門コロンビア大学での紛争は、後の映画『いちご白書』のモデルとなり、日本ではバンバンが歌うフォークソング『いちご白書』をもう一度」で有名になった。

“就職が決まって髪を切ってきた時、もう若くないさと君に言い訳したね”という歌詞を、一度は口にされた方も多いと思う。

社会の不正に目覚め、怒り、警官達に対峙した若き闘士達も今は、散り行く髪を気にしながらビール腹をなでるオジさんへと変貌し「結局、ネクタイをつけようが、つけまいが、人は大人になる。失っては困るものが増える」と、言い訳上手になった。

全盛時であった一九七四年夏には、スタッフと受講生を合わせて二百名を超えたこの英語講習会も今回は、わずかに両方で二十名ほどに減少した。

三十五年の歳月は、世代と時代を変える。英語講習会も変わってしまっただけで当然なのかもしれない。

しかし、その根底に流れる親の思いは常に変わらない。

「英語を学ぶことは言葉を学ぶこと、つまり相手の心を学び、お互いが理解し合える方法を身に付けることである」と、開講式にあ

たり大教会長様よりお聞かせ頂いたように、英語講習会も「にをいかけ、おたすけ」の一環なのである。

しかも、現在では天理教語学院から信仰

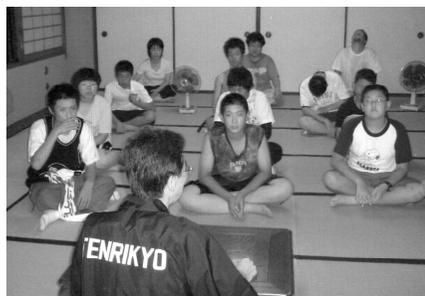
的にも優れたプロの英語講師を派遣していただき「今回は、東本部長、本陸東分(ロサンゼルス)：アンディ富澤氏二十五才」、教育経験者や留学経験者中心の優秀なスタッフ等と共に、パソコンや様々な教育機材を活用し、少人数のメリットを最大限に活かした授業を、面白く楽しく展開している。

このような英語講習会が二泊三日間、おいしい食事におやつもついて二千五百円、社会見学費等オール込みというのはまさに驚きであり、大教会長様を初め諸先生、奥様方の親心以外の何者でもない、私は思うのである。

どうか、この伝統ある講習会の灯を消すことなく、次回英語講習会への参加のお声かけをして下さることを心よりお願い申し上げます。共に、関係者各位に厚くお礼申し上げます。

海外部

香取雅人



真剣に話を聞く

人間ならば、還暦である。

子や孫達に囲まれた若いじいちゃん、ばあちゃん、赤いちゃんちゃんこ”などを着せられ、あまり嬉しくない表情で写真やビデオに収まる歳でもある。

もっとも、九年前に春の英語講習会がなくなり年に一度だけの開催となるまでは、毎年春と夏の二回ずつ開催されていたので、正確には三十五年が経過したことになる。

全分会布教推進週間



去る八月三十一日(日)、布教推進週間の事前研修会を岡山県北部の大佐町にて開催しました。青年会員ばかりだけでなく、女子青年の方々にもご参加いただき、総勢四十名が

大佐町に集い、神名流し、路傍公演、戸別訪問、パンフレット配布に清々しい汗を流しました。

事前研修会開催に先立つて、大教会長様は、我々参加者に対して、概ね次のようなお言葉を下さいました。

(若干受け取り方の違いから、文章の表現が変わっているかもしれませんがお許し下さい)。

「皆さんはこれから、にをいがけをして下さるそうですが、なかなかにをいのかかるものではないですね。効率優先の風潮の中、神名流ししたって、戸別訪問したって一体何になる。もっと効率的な方法があるのではと思われるかもしれません。しかし、よく考えてみれば、食物を食べたって百パーセント身になる訳ではありません。その多くは排泄物として体の外に出されるのであり、人間は多くの無駄を積み重ねて生きています。

おさづけを取り次いでも、いつも立ちどころに良くなるとは限らず、むしろその逆の方が多いかもしれません。しかし、そこを何とか病人さんに救かって頂きたい、と努力を重ねることが真実へと近づく道ではないでしょうか。

こかん様は教祖のお言葉を素直に受けて速に神名を流して歩かれました。皆さんもこ

の活動に意味がある、ない、ではなく、青年会本部からの声に素直に添わせて頂くという事だけで価値あるものではないでしょうか。」

私はこのお言葉をいただき、はっと目の覚める思いがしました。昨年、青年会本部委員長さんより、何が何でも全ての分会で布教推進活動を行っていただきたい。とのお言葉があり、殆どの分会に活動計画書ご提出頂きました。しかしその実は半数以上の分会が活動を実施していなかったようです。このようなことから、今年は私の心の中には今一つ煮え切らないものがありました。

この度の大教会長様のお言葉は、結果や実績ばかりを求める私の心の埃を払い、正しき道へ導いて下さりそうです。

布教推進週間七日目、我が芳井町内にキャラバン隊の青年会員さんと共に神名を流しました。参加した息子が近所の同級生に手を振る姿が十数年前を思い起こさせました。我が家が天理教の教会であることを嫌っていた頃、突然やって来た青年会の方々に神名流しに参加させられたことを。しかし、この出来事は私にとつて天理教を積極的に肯定していく大きな第一歩となったようです。

たかが青年会、所詮青年会、されど青年会。
青年会委員長 佐藤 真孝



にいがけ・おたすけ実修会について

仲條分教会長 重政 禎子

この度、にいがけ・おたすけ実修会の要員に任命されましたが、要員研修会を受講し、私につとまるのだろうかと大変不安になりました。

実修会での教話・・・私は、お道の学校、布教の家などには行ってなく、白梅寮から奈良保育学院に通わせて頂きましたので、保母さんの経験はあるのですが、布教に出て、話を聞いて頂けた、おさづけの取次をさせて頂けたという体験がないまま、今は教会長をさせて頂いております。また、おかきさげについても自分があまり理解できていないのに、当該教会の方々にお話しはできないと思い、自分なりに勉強しながら、原稿を作り始め、仕上がるのに丸二日かかりましたが、少しでも理解して頂けたらという思いで原稿を作り、実修会に臨みました。

実修会を行う日は、朝から大雨で、小雨にでもなってくれればと思いつながら、当該教会

へ出向いて行きました。私が行かせて頂いた教会は、山間の中にポツンとあり、隣の家まで五百メートルくらい離れていて、家もあまりなく、のどかな所にあります。

教会に着いてからも、雨のことが気になっていましたが、雨は強くなる一方で、おかきさげの教理勉強を行っている間に、雨が上がればと思ってもいましたが、ひどい降り方で一向にやむ様子はありません。そんな中、にいがけ実修は必須になっていたのでありますが、出がけからずぶ濡れになるのでと言った理由で、止むを得ず中止にし、そのまま練り合いを行いました。その中では、皆さんににいがけは大変だと話され、また、身上で大きな手術をされた方は、不思議なご守護を頂かれたそうです。その方は、「教会の月次祭は、欠かすことなくつとめているんですよ」と話され、私は、真実のつとめ方に大きなご守護を頂かれたんだと思わせて頂きました。

色々な話を聞かせて頂き、私自身とても勉強になりました。届きません者がつとめさせて頂きましたが、当該教会の心あたたまる思いを感じながら、実修会で行われなかったにいがけのお願いをして、帰路に就きました。貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございます。

第79回天理教青年会総会

青年会員が仲間と共に親里ぢばに帰り集い青年会長様のお言葉に心の向きを揃え、さらなる実動を誓い合う場。

教祖百二十年祭へ向かう三年千日、あらきとうりょうの力を存分に発揮し、教祖にお喜びいただきたい。十月二十七日、総会へ結集しよう。

〈総会式典〉

日時：立教166年10月27日(月) 午前十時

場所：本部中庭

〈前夜祭〉

日時：立教166年10月26日(日) 夕づとめ後

場所：東・西泉水プール前広場

(尚、今年は笠岡分会は出店しません)



▽今回の課題は「間」、撰六十六句中、笠岡に繋がる教友の方二名、二句が見事撰ばれ掲載されていきましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

佳詠

東悠分教会長夫人 田林美智子

人間の

陽気ぐらしや甘露台

佳詠

芳阪布教所長夫人 杉原優子

間に合った最後の

おさづけに笑み浮かべ

養徳社発行

『陽気』誌九月号、「道柳」より転載

どうぞ、この「かさおか」誌に於いても、ジャンル、自薦他薦は問いません、ドシドシ読者の皆様方の才能溢るる作品のご寄稿を、お待ちしております。

〈第23回女子青年大会〉

日 時：平成15年11月3日(月) 午前10時
場 所：本部中庭
内 容：式典、おつとめ支部のつとめ、別席
対 象：中学生～30才

〈笠岡支部バス団参〉

日 時：平成15年11月2日(日)・3日(月)
集 合：11月2日(日) 7:00大教会 7:30出発
内 容：ユニバーサルスタジオジャパン散策 女子青年大会参加
参加御供：¥10,000(全行事参加の場合)

第2便

集 合：11月2日(日) 13:00大教会 13:30出発
参加御供：¥ 5,000(天理直行の場合)

第3便

集 合：11月3日(月) 5:30大教会 6:00出発
参加御供：¥ 5,000

学生生徒修養会 高校の部

— 感想文 —

其之志

芦品分教会 原 美紀

最初は早く帰りたいとかいろいろ思って教室に入った。雰囲気もいやくなふんいきで本当に最初は困りました。

二日目には友達もできただけで行事とかもぜんぜんおもしろくなくて本当に帰りたいと思った。カウンセラーの方は、最初の三日間はつまらんけれど後半の方になってきたらすっごくもりあがるよ！それまですっごくがんばりなさい！って言うってくれてすっごくがんばれる気がしました。わたしが一番心に残ったことは感話大会と全体の集いです。感話大会は、いろんな人の話をきき、涙が出る時もありました。離婚したり、親が出直しをしたりと、いろいろなことがあるんだなあと思ひ、私はとてもめづまれていると思ひました。全体の集いは、ものすっくもりあがって、班の男子とも仲よくもりあがったり、さわいだりしてとても笑顔、笑顔でいっぱいでした。班のみんながまとまらない時は、神様が私たちに身上をあたえてくださって何を伝えたい

のかといろいろ学びました。講師の先生が「天理は幸せをさがすところ」といい、私は別席のところまで別席の先生もそのことを話してくれて、その時から天理（おちば）によるこんで帰らせていただきたいと思ひました。

学修は最高でした。また参加したいです。理由は、今回出会った人に会いたいし、また神様のお鎮まり下さるところ、おちばに帰れるからです。

其之武

福満分教会 福島 佑佳

私はお父さんや、お母さんに言われて学修に参加しました。最初は行きたくなくて、部屋に着いてからもずっと緊張してました。でも、十五班の人たちはみんな話しやすそうだったから、すぐ仲よくなれました。夜、班のみんなと、カウンセラーのなっちゃんと話をしたとき、みんなで泣きました。すごく自分の話をきいてもらえてうれしかったし、みんなの話をきいて、もっと仲が深まった気がしました。私の誕生日がラストの十五日だったのでクラスのみんなで祝ってくれてすごくうれしかったです。私はこの学修を通してたくさんの友達ができまし、いろんな考え方ができるようになって、本当に来てよかったと思ひます。お父さん、お母さん学修に行かせてくれてありがとう。来年もまた行きます。

其之参

川島郷分教会 香取 満彦

受験勉強には大切な夏休みの一週間、それをあきらめてでも行った理由はもっと大切なものを得ることができると信じていたからだ。親友、教友、成人の心、そして教理の勉強など学校では得られないお道を通して得た宝は一生の宝となる。

三回生として参加して感じたのは、皆自分から学修を作り上げていこうという強い意志だった。皆の目の輝きが違った。何かを得たい、何かをつかみたいという気持ちがあふれていた。一つ一つの行事を終えることに、生かされていることを実感し喜びを感じた。皆が背負っている人生の重みを知った。

特に印象深いのが三回の学修の総仕上げ「十二下りてをどり」だ。背すじが自然とのび、声をはりあげて、まさに「命にかえても」べらの気分ですとめ上げたあの緊張感、終わった後の充実感、二度とないかも知れない。総勢二百九十五名が一手一つになれた瞬間だった。

僕は班長をつとめさせていただき、班員の学修の成否を左右する一つの要員として多少苦しんだが、皆に助けられてつとめ切ることができた。

通常の生活でも学ぶことは多々ある。しかし、学修のたった一週間の間に大きな力が

働いたことを学ばせていただいた。それがどのようなものか、未だ学修に未参加の人はぜひ参加してつかんでほしいと思う。

其之四

府世原分教会 高 信 大 輔

学修参加して一言で最高ですわ！最初はまじでだるくて行きたくなくて班のやつをみた時にはどうなる事やらと思ったけど、今思え

談話室



一期講師の御命を頂いて

福昭分教会長 平 盛 秀 年

六月から八月まで修養科第七四六期一〇二組担任として三ヶ月間おぢばで修養科生と共に修養させて頂きました。三十三年前三五三期生として私自身の修養科生活をふり返ってみて、とても真面目に三ヶ月間通ったとは思えませんでした。一〇二組は女子四十二人のクラスで上は九十才から下は十七才と幅広い年齢層で又、天理教が初めての方から、すでに教人の方と様々でした。主任先生からの研

ば、ほんまに自分の班でよかった。気が合う奴ばかりで最高の思い出だった。

遊ぶ時や、さわぐ時はさわいで、真剣な話ではみんなマジで考えて悩んでいろいろと分りあえたし、きずなができた。特にカウンセラーの人はめっちゃがんばっていて、オシらの見てない所でめっちゃくちやがんだり、夜も寝ずにすごかったと思う。ほんまおもしろかったし、最高だった。

修で「修養科というのは学校ではなく、あくまで修養の場であり、修養科を修了しても何の資格もなく、よぶよぶにならせてもらうだけで、よぶよぶになるのは何も修養科でなくても別席を運び、満席になればよぶよぶになれるというお仕込みを頂き、三ヶ月間信仰を求め、おぢばに伏込み、教理勉強の場である。」と、お聞かせ頂きました。私自身の悪い癖性分である短気で怒りっぽく、口の悪い言葉を慎んで、通らせてもらおうと心に定め、勤めさせてもらいました。

そして、四十二人の修了目指して始まった一カ月中頃に、七十六才の方が吐血下血で、憩いの家に胃潰瘍で入院されました。そして、一週間の絶食で、点滴を続け、それでも胃に開いた穴がふさがらなければ手術をするとの事でした。手術をすると修了が難しくなるので一週間の点滴で御守護が頂けるようお願い

づとめをし、毎日おさづけの取次に運ばせて頂いたところ、一週間で御守護を頂かれ、約二週間で退院され、その後毎日修養科にこられ、無事終了という御守護を頂かれました。又、十七才、十八才の子供達三人が続々と帰るという中、詰所の先生と連絡を取り合い、無事終了させて頂いた事、誠に有難かったです。残念ながら、二カ月目終わり頃一人の辞退者が出た事が残念ですが、三ヶ月間修養科生と共に、私自身の癖性分を出す事なく勤めさせて頂いたこと、只々勿体なく有難い思いで一杯です。

又、一期講師として別席のお話を聞かせて頂いたことも、私自身全くと言っていい程、別席のお話しが記憶に残っていないなかったので、これ又、感謝の気持ちで一杯でした。又、教祖百二十年祭三年千日のこの旬におぢばにお引き寄せ頂き、誠に有難い気持ちのまま、残る年祭活動の上に、更なる心の成人を目指して、勇んで勤め切らせて頂くと思っております。ありがとうございました。

立 場

三郡分教会長 貞 清 知 実

平成十五年六月二十六日、おぢばで教会長のお許しを頂きました。昨年の暮れに前会長である父が出直し、九ヵ月以上が過ぎた現在、

私は教会長として御用につとめさせて頂いておられます。何もかもが初めての事ばかりで、自分の無能さと不安を感じながらも、自教会の信者様のお力添えや家族の支えによって、何とかつとめさせて頂いています。

教会長をさせて頂らって、初めて、今は亡き父の心労や、人の上に立つ事の大変さを実感しています。個人的な意見で私が言うのもどうかと思いますが、人は、他人の立場に立つて初めて、その人の偉大さや心の内が本当に分かるんだなあと、改めて思っている次第であります。

そうした上で私は、前会長である父が通ってきた道は、非常に大きなものと気付き、当時の心労を理解すべく、その思いを無駄にする事のないよう、教会を預かる立場の者として、頑張つてつとめさせて頂くと共に、信者様方、又家族を護っていきたいと思います

なってくるのが天の理 —ふしから芽がでる—

国里布教所 河田 恵 理

私は今から二、三ヵ月前、布教所の月次祭の時、國須分教会橋高祐高会長様より、機関誌「かさおか」に、文を書いてみないかと言

われ、何気なく軽い気持ちで引き受けました。しかし、何を書こうか迷っているうちに信者さんの出直しが途中にあり、やっと自分自身の今までと現在を書こうという気持ちに至りました。

現在、私は、F市内の小学校でいわゆる特殊学級と呼ばれているクラスの介助員をしています。この職業に就くまでには、いろいろ経緯があります。私は、高校受験を控えた中学三年の初めから体調を崩すことが多くなりました。ましてや、受験するにあたってとても大切で高校受験の可否にかなり関係すると言われていたセミナーテストを熱が出て受けられなかったり、体調が悪く思うように結果が出せなかったりと不運続きでした。極めつけは、公立高校の受験の前は、インフルエンザにかかり思うように勉強すらできませんでした。その時初めて勉強が思うようにできない悔しさ、体が思うようにならない悲しさで涙が止まりませんでした。結果、公立高校不合格という私の中で、人生最大と言える挫折・どん底を味わったのです。受験前から教会のトイレ掃除をさせていただいたり、両親には神様に理を立ててもらったりしたのに、何で私が……。そんな思いばかりが募っていききました。神様なんているはずがない。こんなに行くと相当学費はかかる。どうしよう。両親

に申し訳ない。そして、仲の良い友だちまでが敵に見えてくる。可愛そうにと同情しているように外に出ると見えていました。だから、外に出ることがほんとに嫌になっていました。しかし、布教所長である母は私と一緒に布教に出ようと言ってきました。ほんとに、あまり行きたくなかったし、神様も信じられませんでした。半ば強引に一軒、一軒、インターホンを押し「こんにちは。天理教です。パンフレット読んで見てください。」と言っていました。そして、それから、高校入学までは、段々に気持ちが前向きになっていました。それは、やはり陰で支えてくれた両親や弟や妹、それに祖母や叔父、友だち、その他のひとたちのお陰だと思えます。それからの私は、見返してやる気持ちで一所懸命に勉強もし、布教も母とするようになりました(パンフレット配りですが)。お陰で身体も強くなり高校三年間一日も病気で休むことはありませんでした。

そして、高三。将来について真剣に考える時、私は、教師になつて子どもたちと一緒に悩んだり考えたり笑ったり、そのなかで子どもたちの心を救いたいと思ひ養護学校を目指し大学へ進学しました。(私立へ高額の授業料を払ってもらつて両親には申し訳なかったのですが、お陰様で大学は公立に合格し、家から通いましたので高校よりも安く行かせて

もらうことができました。」

そして、卒業を迎える時、今のこのご時世就職はないだろうとあきらめていましたが、一応履歴書だけは出して置き、面接もしてはいました。ですが、かなりの倍率、新卒は相手にされないかと思っていました。だからわたしは、大学を卒業したら修養科に行く心定めをしているし、それを破ることはなんか気持ち悪く思っ、「相談してかけなおります。」と言っ一端電話を置きすべくに、橘高祐高会長・俊子ご夫妻に相談しました。すると、「引き受けなさい」とのこと。会長様ご夫妻も自分のことのように喜んで下さり、私も引き受けることにしました。

そして、四月一日に辞令を頂き、病弱学級で二人の男の子の担当となりました。いずれも限られた命であります。その子たちと日々接していく中には、目に見えて衰えていく筋肉や身体の調子。胸の詰まる思いがします。その子たちとの関わりが私の心の栄養分の一部であり、彼らから学ぶ命の尊さ、今の子どもたちにはすこしかけている純粋さが彼らにはあります。

会長さんがこの仕事を始める前、『どんなことでもひのきしん精神でやらしてもらいなさい』と言われていました。私は、そのつもり働いていますが、たとえ寿命は限られていても先のことは分からないので、少しでも将

来彼らが困らないように生活指導や勉強を教えたいという気持ちと、しかし後少ししか生きられないのだから思うようにさせて楽に生きさせてあげるか、その日々の生活に毎日心を痛めながら、就職してすぐこのように大仕事を与えられたことに、感謝と不安とで最初は過ごしてききましたが、今は少しでも彼らが長生きできるように心より祈り、彼らが生きていくうえで少しでも力になることができればと、私自身長期の休みには、大学に通わせて頂いて障害児教育に少しでも知識を身につけるように努力しながら資格もとらせて頂いております。

最後に私は未熟者ではありますが『なっくるのが天の理』『節から芽が出る』と、よく母より聞いておりましたが、今はそのお言葉をしみじみ感じ喜び勇み日々を通らせて頂いております。

これから高校受験・進路等で挫折を味わったりされた時、私のようなご守護を頂いたものがいることを思い出し、神様にもたれて前向きに努力してください。努力は決して嘘をつきません。必ず神様は見守って下さり、ご守護くださいます。そして、その挫折が大いに人生に人だすけに役立ちます。教祖も貧に落ちきられてひとさまをおたすけ下されたのですから・・・、と今は言えますが、その時は言えませんでしたけどね・・・。

・原・稿・募・集・

内 容 ①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事等々

字 数 1000字前後 (800字~1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は1句からでも結構です。

寄 稿 先 下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便 : 〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377
F A X : 0865-66-1314
電子メール : kasaokazaki@rio.odn.ne.jp
尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

◎ 職制人事
|| 辞令 ||

大教会だより

立教166年8月21日付
詰所部部長 吉岡 壽

八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には「しやハセをよきよふにとてじうぶんに、みについてくるこれをたのしめ」と子供かわいひ一条の親心のまに、私達人間をお創造下されたばかりでなくその目的である陽気ぐらしが出来るようにと常にお働き下さり御守護お導き下さいます事は誠に有難く勿体ない極みでございます。私共は「成つてくるのが天の理」とのお言葉を胸に思う通りに又願う通りに行かない中でも常に親心を思索し我が心の反省を重ね喜びの心に立て替えるべく御恩報じを念頭に日々は朝夕に御礼申し上げつつたすけ一条の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は八月の月次祭を執り行なう定めの日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同残暑厳しい中も厭わず今日の日を樂しみに寄り集いました道の子のお歌の唱和と相共に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます。皆のおつとめに込める真実の状を御覽下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて第五十回記念の子供おちば帰りも無事・無難にとお連れ通り頂き誠に有難うございました。今年は土持ちひのきしんに特に力を入れつとめさせて頂き子供おちば帰りが単なるお祭りの行事ではなく伏せ込みの一つであるとの認識を新たにさせて頂いた次第でございます。又引き続いて学生生徒修養会高校の部が開催され最初嫌がっていた子供達が帰る時には喜び心一杯にならせて頂く事が出来ました。改めて御礼申し上げます。夫々参加してくれた子供達が立派なよふぼくになるよう今後の丹精に力を注いで行く所存でございます。更には英語講習会、野外錬成会、こかん様に続く会を通して若い世代の育成を計らせて頂く所存でございます。更には又おちばより来月九月はにをいかけ強調月とお声を掛けて頂いております。教祖百二十年祭に向かう実践項目の一つ。一歩前進百万軒をしつかり心に治めてにをいかけに邁進させて頂く覚悟でございます。

何卒親神様には親心に添う皆の真実の心をお受け取り下さいます。万たすけの上によるの御守護を賜り荒び勝ちなる人々の心が真実の親心に浴したすけ合う心に目覚めてお望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます



誦達第二号が発布されて早や、一年を迎えようとしているが、「実動は」と自問してみると昼間の朝顔の様である。日課として実動する習慣が身に付いていないし教会長、用木だからというアイデンティティ(自分が何者であるかという意識)がしっかりしていない事が原因だと思っている。

後者に、関しておもしろい話がある。「おれは刑事である」というアイデンティティがはつきりしている柔道三段の刑事は、五段の泥棒をちゃんと取り押さえられる。又、皆と一緒に酒を飲んでる医者が「これ以上飲まない」という。自分は「医者」だから自分の悪くなった人が出たら面倒を見なければならぬ。その時、処置が狂うからと答えたと言った。

私なんか「実動する時」なのに「私、(外へ)出ん。(家で)お茶お茶」のアイデンティティしか持ち合わせていない。

冗談はさておき世間で会社勤めしている者はノルマ(各人の労働責任量)をかけられるという厳しさがある。それに反して、お道の者は人に言えない苦労もあるが、人に分らないエー(こともあると表現した人がいたが、エー(ことに甘えて身上、事情に迫られてから「ハイ、実動します」では親神様、教祖に申し開きがたぬ。

今回この原稿を反省するよすがとして、私の「成人の心定め」て筆を置きます。